

「生命のがん教育」を実施しました

(令和3年度1学期分)

令和3年度1学期は14校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20分)
- (2) がん経験者のお話 (20分)

◆授業風景



(木津川市立南加茂台小学校)



(京都府立南陽高等学校附属中学校)



(京都府立洛水高等学校)

◎小学校 (5校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
6/10 (木)	京丹波町立瑞穂小学校	6	京都府南丹保健所 所長 時田 和彦
6/25 (金)	木津川市立南加茂台小学校	5・6	京都山城総合医療センター がん診療部長 小池 浩志
6/28 (月)	井手町立井手小学校	6	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 春里 暁人
7/2 (金)	長岡京市立長法寺小学校	6	済生会京都府病院 消化器内科部長 大野 智之
7/16 (金)	京都市立山ノ内小学校	6	京都府立医科大学附属病院 消化器外科助教 清水 浩紀

<児童の感想>

- ◇ 「がん」はとても怖い病気なんだと、改めて思いました。「がん」は見つかりにくいなんて初めて知りました。大人になったら、がん検査をしようと思いました。
- ◇ 「がん」はどうすれば予防できるのか、どうすれば「がん」になってしまうのか、どのような種類があるのかを知れました。
- ◇ “がん”はバランスをとれた食事や睡眠、運動をすることで100%じゃないけど予防はできると知った。そして検診を受けることで“がん”が早く見つけ治療することが大切だと知った。もしなっても最後まであきらめなければ、治ることもあると分かった。
- ◇ “がん”は“いろいろなところに転移する”というのは知っていたけれど、大きくならないと自覚症状が出ないというのは、初めて知ったし、とても驚いた。
- ◇ 自分は寝る時間が遅いので、早く寝られるよう気を付けたいと思い、また体に異変が起こる前に検診を受けたり、「自分には起きない」という意識を無くしたりしたいです。
- ◇ 毎日運動したりすることが大切だし、もしまわりの人が“がん”になったとしても、支えてあげることも大切だと思いました。

- ◇ 当たり前は本当の当たり前じゃないということを改めて感じました。今感じられている幸せをこれからも感じたいと思います。もし「がん」になっても明るい未来を信じて、「がん」を乗り越えようと思いました。
- ◇ 「がん検査受けてね」や「がんは身近な存在なんだよ」などをいいたいです。そして「がん」に対する意識をもっともっと深めて欲しいです。
- ◇ たばこを吸ってない人でも、たばこのけむりで肺が吸っている人と同じくらい黒くなることを初めて知りました。
- ◇ やっぱり早期発見、早期治療が大事なんだと思いました。

◎中学校（2校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
6/2（水）	京都府立南陽高等学校附属中学校	3	京都山城総合医療センター がん診療部長 小池 浩志
7/6（火）	八幡市立男山第二中学校	2	宇治徳洲会病院 放射線治療科部長 立入 誠司

<生徒の感想>

- ◇ 喫煙所でないところでたばこを吸っている人は、自分だけじゃなくて周りの人の健康も害しているということを知ってほしい。
- ◇ 早期発見することの大切さを知ることができました。早期発見のためには、周りに気を配り、他の人の変化に気づいてあげたりできるように、常に相手と向き合うことが大事なんだなと思いました。
- ◇ 定期的のがん検診に行くのが大切だと思いました。私も大人になったら1年に1回がん検診をしようと思います。
- ◇ 「がん」の原因になる細胞は毎日できていることを知りました。明日「がん」になってもおかしくないけど、早期に見つけることができれば、治ることが分かりました。

◎高等学校（7校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
5/12（水）	京都府立園部高等学校	1	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 春里 暁人
6/2（水）	京都府立南陽高等学校	1	京都山城総合医療センター がん診療部長 小池 浩志
6/9（水）	日星高等学校	1	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 春里 暁人
6/17（木）	京都市立白河総合支援学校	1	京都大学医学部附属病院 産科婦人科講師 濱西 潤三
6/29（火）	京都府立洛水高等学校	1	京都第一赤十字病院 臨床腫瘍部長 内匠 千恵子
7/7（水）	京都府立北桑田高等学校	2	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 春里 暁人
7/9（金）	京都府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎	1	京都府立医科大学附属北部医療センター 診療部長 堅田 和弘

<生徒の感想>

- ◇ 一生のうちに2人に1人が「がん」になると聞いたときは、少しびっくりしました。「がん」って小さいときは絶対良くならない病気というイメージがあったけど、今は治るということを知りました。未来では末期でも治る時代が来たらいいなと思いました。
- ◇ 大切な人には理解してもらいたいと思います。「がん」になる確率が高いし、なってもおかしくないから。自分になろうが、大切な人がなろうが、支え合うということは大切だと思っています。
- ◇ 「がん」は早期発見によって、生存率が大幅に上昇するということに驚きました。また、正常でない細胞ができて1cmの大きさになるのに10～20年かかるのに対し、そこからはどんどん進行が早まってしまうのが恐ろしいと思いました。

- ◇ 「若いからまだ大丈夫。」と思うのではなく、今のうちから食生活や生活リズムに気をつけることが未来の自分の健康につながると学んだので生活習慣を整えたいです。また、家族などにがん検診を受けてもらえるようにしたいです。
- ◇ 今からでもがんにならない努力はできると知ったので、生活を変えていきたいと思いました。また、たばこだけはいい事が何一つないから、絶対吸わないようにしたいです。お酒もアルコールの摂取量が20gまでとされているのも初めて知れたので、覚えておきたいです。
- ◇ 実際にがんを経験した人の話を聞いて、どんな風に見つかったのか、どんな治療をしたのかを知れてすごくためになりました。大人の人が毎年しているがん検診は、すごく大切なものだということが分かったから、検診をかかさずに行こうと思いました。また、周りの人ががんになってしまった時、支えてあげられる人になりたいと思いました。がん検診に行っていない人がいたら、「行ったほうがいいよ」と一言声をかけてあげようと思いました。
- ◇ 日頃から食生活や生活習慣には気をつけて、大人になったら検診もしっかり受けたいと思いました。そして家族のちょっとした変化にも気づけるようにしていきたいです。
- ◇ 1日1日を大切に過ごしていきたいと思いました。食生活や適度な運動を心がけていきたいです。家族を大事にしたいと今回の授業で改めて感じました。
- ◇ がんはすごく身近な病気なんだなって改めて思いました。予防方法があるからといって完全にならないわけじゃないから、気をつけます。道端とかでたばこを吸っている人とか歩きながら吸う人もいるから、その人らのせいでこっちが受動喫煙になるのがすごく嫌。
- ◇ 自分なら封筒の子宮頸がん予防ワクチンのお知らせを適当に流さず、考えたり、親も一回かかっていたので親とも話し合い、何が一番よい選択なのかを考えて、行動に移していきたいと思いました。若いからと無関心にならず、何が一番よい選択かを考えていきたいと思いました。また、普段から生活を考え、健康に過ごせる将来のために行動していきたいと思います。
- ◇ “がん”になるのには原因があって、本当にストレスや食生活などの影響は大きいんだと感じた。今僕達が行っている運動、バランスの良い食事を摂る生活を大人になっても続けていこうと思われた。もしそうなってしまった時のために自身ができることのヒントを貰った。まずは“がん”にならないよう基本的な生活をしていきたい。
- ◇ “がん”になったとき、本人は本当に悲しくなったり、怖くなったりするけど、誰かのささいな言葉がすごい力になることや、誰かの存在が大きな力になることを知りました。そして今この時間も大切な時間であって無駄な時間は無いので毎日意味のある行動をし、周りの人に感謝しながら生きようと思いました。
- ◇ 医者視点と患者視点で話を聞いて、それぞれ、“がん”の早期発見をすることと、“がん”にかかったときどのような体験をしたのか等聞いて良かった。患者側の話を聞いて、何でもかんでも後回しにしてやろう思わないことが1番良いことだと思った。
- ◇ 今日のがん教育の時間で、“がん”は早期発見と早期治療が大切で、“がん”を怖がって病院に行かないのは早期発見につながらないし、早め早めの行動と時間を大切にこれから生活していきたいと感じた

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp